

研究ノート

「医療的ケア」基本研修修了者の就職後の動向に関する調査

— アンケートから見えてくるもの —

志 賀 恵 子

Survey on trends in employment after completion of “medical care” basic training

— Findings from the questionnaire survey —

Keiko SHIGA

1. はじめに

介護の現場における喀痰吸引、経管栄養等の医療的行為について、これまで物議が交わされ行政を含め色々と検討されてきたが、ようやく法も整えられ、(2011(平成23年)年6月に、社会福祉士及び介護福祉士法の一部が改正され2015(平成27)年4月1日より)介護福祉士は、医師の指示の下で「診療の補助」として痰の吸引と経管栄養を行う事を業とすることが認められた。(ただし、一定の研修を受けた介護職員等は)先の平成28年1月の国家試験からは「医療的ケア」の内容が出題されるようになり、教科としても重要になってきている。介護の現場では現在人材不足が叫ばれ、医療の現場だけではなく介護の現場においても質の高いケア(医療的知識を持った)が求められている。介護保険がスタートする以前から比べると、かなりの違いがある。利用者の介護度も高く殆んど施設においても要介護度4以上で、高齢者特有の疾患更に難病も加わってくる。介護度が高いと言う事は、医療的処置も多くなっている。施設の看護師だけでは、利用者の状態観察、ケアが間に合わない状況である。質の高い介護福祉士の要望が高い背景には、看護職の人材不足を補っていかねばならない現状がある。勤務帯によっては、看護職に変わって判断せざるを得ない状況も出てくる。当然、医療的知識を学んできているだけではなく、実践で活かされなくてはならない状況がある。

30年前の医療から比べても、日本の医療は進歩し当時から考えられない様な技術に目を丸くしてしまう。熱傷の治療1つ取ってみても、その処置の仕方が全くと言っていいほど異ってきている。皮膚形成の技術は、日本は最先端を行っており世界から注目されている。少し前だったら亡くなっ

ていた心疾病も、ペースメーカーや冠動脈ステントが助けてくれる。また、電子カルテ（患者氏名・生年月日・住所・保険関係情報・病名・既往歴・主要な症状と経過・処方・手術・処置など、報告書、画像・波形データ、紹介状、指導内容、説明書、同意書、看護記録、手術記録、診療計画、看護計画などの情報を電子化したもの）はもちろん、看護記録も今や患者様の側に居て直ぐに入力できる。入院患者はリストバンド（賛否両論あるが）で患者氏名の確認、投薬管理など医療事故防止も可能になりました。ロボット工学の進歩もそうである。医療・介護の現場に導入されつつある。日本は世界で最も長寿国となったが、今年報告された日本の人口は、戦後初めて減少となり、これからは人口は減少していく。生産人口がどの分野においても不足状況。外国人労働者やロボットが人材不足を補い、今後の日本をどう支えてくれるのか。福島は震災も経験して地域を支える人材育成を考えると、医療の現場においても介護の現場においても介護福祉士の役割は大きく期待は高いが、もっと真剣に考えなければならない状況がもうすぐ目の前に来ている。

そんな中、これから介護に携わるであろう学生たちは、ほとんどが核家族に育ち高齢者との接触が極端に少なく「老い」について知らない。ある種のカルチャーショックを感じてしまうが、戦後の激動期に比べれば左程ではないにしても、この30年の変化はやはり大きい。核家族化が進み、現在では約7割の家庭が夫婦と子の世帯である。おじいさんおばあさんとの接触があるとはいえ希薄な状態で、人間形成がなされた時、どの様に影響を与えるものなのだろうか。また、その影響も良い結果とされる場合とよくない結果とされる場合とあるはずである。この点についてはまた、別の機会に検討したい。専攻科の学生は、ほとんどが幼児教育科を卒業しているため、最初の授業では子どもと高齢者の特徴について、相違点と類似点について話し合ってもらおう。しかし高齢者との接点が無く過ぎてきているので、やはりピンとこないようである。「医療的ケア」の喀痰吸引や経管栄養は、終末期のケアの病状が重くなるこの時期に多くなっていく処置である。勿論、他のどの教科とも繋がっており特に「終末期のケア」「看取りの介護」は重要な教科と言える。基本研修ではあるが、「医行為」である喀痰吸引や経管栄養を行うにあたり高齢者・障がい者の特徴、危険と隣り合わせになる状況もある事をしっかりと学ばなければ、就職後に対応が困難となって来ってしまう。生命の尊厳・利用者本位に考えることを基本に学習を進めてきた「医療的ケア」について、「こころとからだのしくみ」と併せて、しっかりと学んで将来に活かしてほしいと切に思う。平成27年度、初めて「医療的ケア」基本研修を終了して医療・介護の現場に出た卒業生が、どこまで理解できたのか。またこの経験が活かされているのか。アンケートを実施した回答から見えてくる課題等を考察し、今後の介護現場の人材育成と「医療的ケア」授業の効率化の一助としたい。

2. 研究方法

(1) 研究目的

平成30年度からは、いわき短期大学において介護福祉士養成課程が終了し、4年制の2年課程で養成が再スタートする。これを踏まえて1講師においての講義、演習授業の進め方・時間割など再検討が必要になってくる。効果的な方法を模索する糧とする。

(2) 研究対象者

平成27年度 専攻科学生 13名

(3) 研究期間

平成27年9月～平成28年11月

(4) 調査・表記に際しての留意点

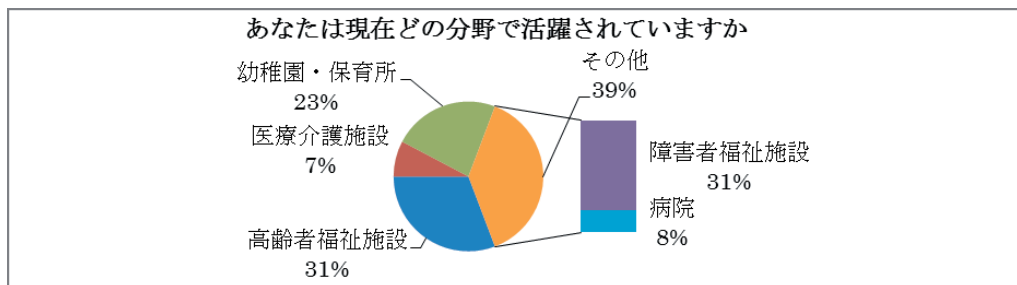
研究対象者からは、無記名でアンケートの協力をいただいた。(氏名が分からないように配慮)、更にプライバシーの保護に留意した。

(5) 分析方法

アンケートを作成し、アンケート依頼状を添付。同意が得られた卒業生13名中9名の協力を頂き、研究に着手した。

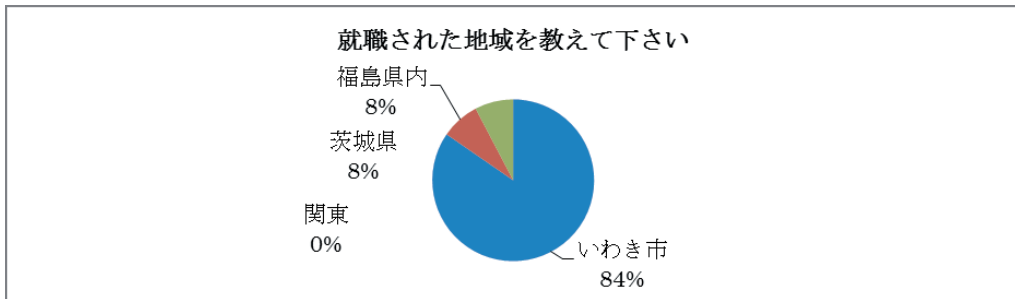
3. 結果

問1. 現在どの分野でご活躍されていますか？



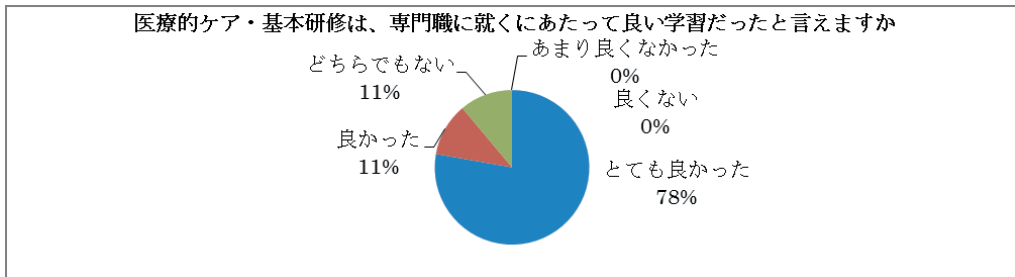
高齢者福祉施設：31%（4人）、医療介護施設：7%（1人）、幼稚園・保育所：23%（3人）
障害者福祉施設：31%（4人）

問 2. 就職された地域を教えてください。



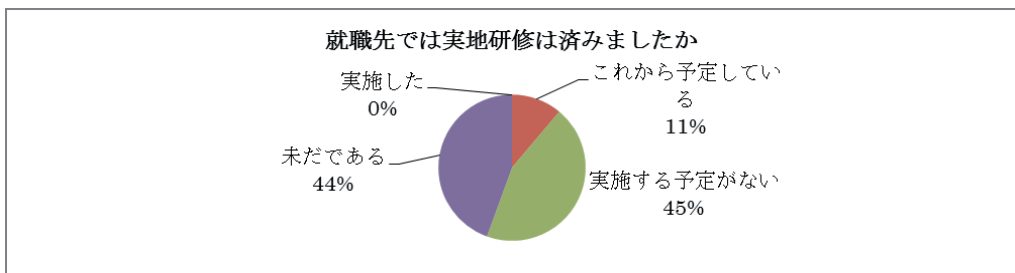
いわき市内：84%（11人）、福島県内：8%（1人）、茨城県：8%（1人）

問 3. 医療的ケア・基本研修は、専門職に就くにあたって良い学習だったと言えますか？



とても良かった：78%（7人）、良かった：11%（1人） どちらとも言えない：11%（1人）

問 4. 就職先では実地研修は済みましたか？



実施した：0%、これから予定している：11%（1人）、実施する予定がない：45%（4人）
未だである44%（4人）

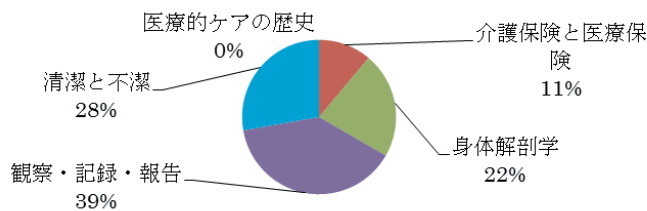
問5. ヒヤリハット・アクシデント等はありませんでしたか、また、その内容はどのようなものでしたか？

ヒヤリハット・アクシデントの内容

- ・介護現場におけるヒヤリハットの回答：無し
- ・幼稚園・保育園におけるヒヤリハット・アクシデントの回答：1件
内容：違う児童へ薬を服用させてしまうところだったが、回避できた。

問6. 医療的ケアにおいて、これは知識として是非押さえておくべきだと感じた事項があればお答えください。

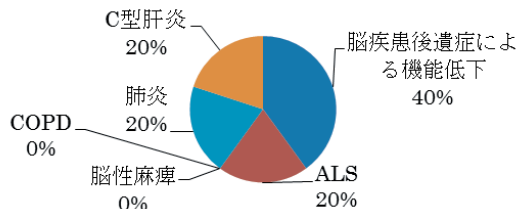
医療的ケアで押さえておくべき事項



介護保険と医療保険：11%（2人）、身体解剖学：22%（4人）、観察・記録・報告：39%（7人） 清潔と不潔：28%（5人） ※複数回答

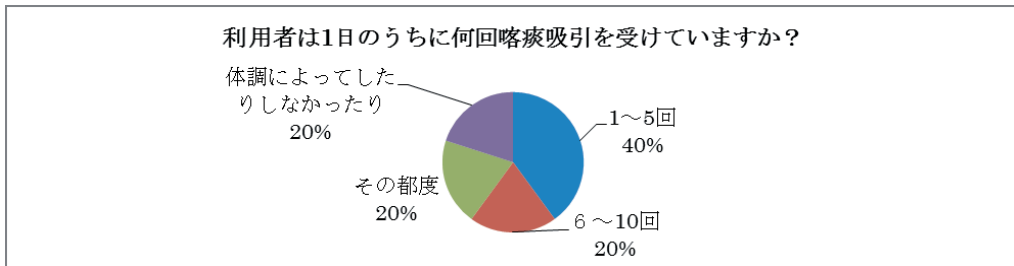
問7. 職場において喀痰吸引・経管栄養をされている方の病名は何ですか？

医療的ケアをされている方の病名



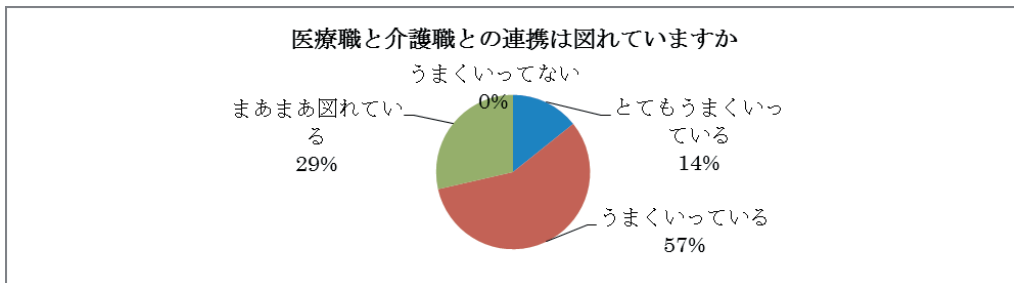
脳疾患後遺症による機能低下：40%（2人）、ALS：20%（1人）、肺炎：20%（1人） C型肝炎：20%（1人）

問 8. 施設で喀痰吸引を受けている利用者は1日のうち何回くらい喀痰吸引を実施していますか？



1～5回：40%（2人）、6～10回：20%（1人）、その都度：20%（1人）、
体調によってしたりしなかったり：20%（1人）

問 9. 医療職と介護職との連携は図れていますか？



とてもうまくいっている：14%（1人）、うまくいっている：57%（4人）、
まあまあ図れている：29%（2人）

問10. 医療的ケアの授業においてもっとこうすればよかった、こうして欲しかったなど意見がありましたら、お聞かせください。

自由記述

- ①カッピングすることが多いので、いざという時にしっかりとやりたい。
- ②急変時の対応（詰まってしまった時に、すべき行動（NSを呼ぶー吸引器の準備ータッピングー口腔内の除去）
- ③実技試験前にたくさん練習をすればよかった
- ④清潔不潔の区別は出来て当たり前と思われるのでしっかりと身に着ける
- ⑤吸引に限らず全てにおいて記録や報告は重要なので少しでもしっかりと覚えておくと職場ですぐ活かせる
- ⑥吸引器の消毒方法
- ⑦便秘の方への対応・方法（ラキソ・摘便など）
- ⑧気管カニューレや尿管の入っている人への入浴方法について、もっと詳しく教えてほしい。
- ⑨点滴をしている方の衣類着脱や気を付けることについて。
- ⑩もっと講義をしっかりと聞いておけばよかった。だが、とても今後の為になる内容であった。ビデオを観たり、説明がわかりやすかった。授業に不満はなかった。

問11. 学校側への要望

自由記述

- ①教え方が的確で分かりやすかった。
- ②年に1回施設でお祭りがあるので、ボランティアに参加して下さいますようお願い致します。
- ③特になし：4

問12. あなたは介護福祉士としてこれからどの様に利用者のケアにあたって行こうとお考えですか？

また、お困りの事がありましたらお聞かせください。

自由記述

- ①心にゆとりを持ち、周りの小さな変化にいち早く気付けるようにしていく
- ②今の施設では、受け持ち利用者が居ても親密に関われず、車いす掃除や環境整備など全体の仕事が多く不満を感じている
- ③利用者は普段の会話や行動は見ていないようで意外と見られていることがわかりました。そのため、普段のコミュニケーション、行動は大切なのだと思いました。業務中心にならず、コミュニケーションや傾聴の姿勢を持って初心の心を忘れないようにしたい
- ④仕事をしていると焦りや余裕がなくなる。そんな時は一度、立ち止まり利用者とのコミュニケーションを図るようにしている。「いい天気だね」「今日もよろしくね」と声をかけていただくほか、「大丈夫かい?」「疲れた顔しているんじゃない?」と心配の声をいただくことがあり疲れを自覚することがある。利用者に対してサービスを提供するだけでなく、助けてもらうことがあり1人日ひとりの声を大切にすることで自身の向上にもつながっていると感じている。
- ⑤介護福祉士として働いてはませんが、清潔と不潔を学んだことで、今の仕事に活かしている部分もあるため、役立ったと感じている。今後も衛生面において心掛けて行きたい。
- ⑥1人一人にあわせた介護がしたいが、人手不足のためゆとりがない。しかし、最近では時間があるときは、1対2などで、ちぎり絵などを行っている。みんなのできる日が来るといいなと思っている。
- ⑦看護婦さんの言う言葉や利用者の持病をちゃんとわかって介護したい。夜勤帯、対応がわからないと困る。「家庭の医学」買うか迷い中。
- ⑧チーム連携をいいものにして「その情報」を共有していきたい。
また、1人一人の変化など素早く「気づける」ような人になりたい。その人に合った声掛けや対応をして不快な気持ちで生活を送らせたりしないよう、注意していきたい。

4. 考 察

平成27年度専攻科卒業生は13名。そのうちの9名から回答が得られた。学術的には参考資料とはならないまでも、問6のようなヒヤリハットやアクシデントを回避することが出来たり、むせの場面においても冷静に対応されている様子が伺えて、何らかの形で知識・技術の面でも身に着いたと言える様な事例をうかがい嬉しく思っている。また、就職して1年に満たない状況で、多職種との連携を図りながら既にいろんな気づきを得ている。介護の現場では、このように「医療的」な知識が重要なのだと言う事を痛感していること、現場では利用者本位とはうたってはいるが他の業務が

多く、なかなか受け持ち利用者の個別ケアまで行かない現状がある事、高齢者の食事場面においては、想っていた以上にむせの現場が多い事、が自由記述からもうかがえた。そこで観察すること。報告すること。記録することの重要性を痛切に感じ取っていることがわかる。「清潔と不潔」においては介護の現場に限らず、幼稚園・保育所は季節によっては、集団感染を防ぐ意味からもより神経質にならざるを得なく、大切な項目だとしている。

医療的ケア講義では、むせの場面での対応・観察の徹底・記録・報告をよりしっかりと指導すべきと考える。記録の部分では心配に思う点がある。昨今の学生は本を読まない。また、字が読めない学生が多いことに驚かされる。勿論漢字も書けない。以前、勤務していた職場でも介護職の記録に多少なりとも問題を感じたことはある。この記録は、現場において3年の保存が義務付けられている。情報の電子化が進んではいるが、アナログでの紙媒体による記録は無くなるのか。いや無くならないであろう。介護の現場は、色々な職種が連携して協働でケアにあたっている。専門用語も多くなかなか苦勞するところではあるので、「記録」においても従来のものでは伝わりにくかったり、伝えづらかったりするであろう。誰が読んでもすぐに理解できるような記録にしていかなければならない。例えば、医療の現場では詳細は、文字だけでは伝わらない部分があるので、医師も絵を用いて記録する。胸部・腹部・身体全体図を使って記録される。介護の現場では、利用者の表情や興奮している様子など、文字だけでは伝わらない。上記のように絵での記録もあるべきと考える。介護実習でも、日々の振り返りの記録や施設概要、利用者の情報、プロセスレコードを書き、SOAPで利用者の状況からニーズを拾い上げ計画立案の道筋を立てていく記録がある。しかしこれとは違って、医療的ケアでは医師の指示書に従って喀痰吸引や経管栄養の①実施した時間②栄養剤の種類③栄養剤の量④利用者の状態を、誰にもでも（医療的ケアチーム：医師・介護福祉士・看護師・理学療法士・栄養士・薬剤師など）伝わるように具体的な記載が求められる。簡潔明瞭に記載しなければならないため、必然と専門用語や医学用語が使われる。しかし、これらの用語を使うにも言葉の意味を理解していなければ使用は困難である。1年間の短期に学ぶわけであるから大変であるが、実習記録はもちろん、日々の学習の中でのレポートや豆テストからも分かる様に、実際問題、学生は字が「書けない」「読めない」。近年の学生には全国的にもそのような傾向がある。福祉や介護用語は、よく使われる言葉なので馴染みがある。しかし、疾病や看護用語になると解らないと言う。よく考えると、文字が持つ意味を理解すれば少しずつ理解していくように思われる。例えば、身体に使われる文字には、「月」片が使われている：下肢・四肢・腹部・臍部・胸部・季肋部・膝関節・肘関節・腰部など。月は、肉月とも言って、「肉」の字が変形して出来た文字になる。などのように、言葉の意味を伝えながら工夫を入れた説明が必要なのだ。筆者自身ももう少し具体的に説明ができるよう努めなければと思う。具体的な資料作成を進めたい。

5. おわりに

介護福祉士は介護のプロ。知識は勿論、人間性が問われ総合力が大切だと言われています。卒業生が一番大切な部分を忘れずに、純粹に現状に抗いながら模索している様子が、本当にうれしい限りである。筆者自身もこのアンケートを通して考えさせられた部分が多々あった。この度のレポートは、1年に満たない卒業生を対象としたものであったが、今後も調査を継続していき課題を明確にし、より充実した内容にしていきたいと考える。

引用文献

- 1) 最新介護福祉全書：医療的ケア13、P5
- 2) 新漢語林 第2版 P684